

日本ハリストス正教会教団・西日本主教教区報

西日本正教

No.145

Spring, 2019

西日本主教教区宗務局

604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283

京都ハリストス正教会内

Email: ocj_kyoto@yahoo.co.jp

電話・FAX (075)231-2453

郵便振替 01030-5-18547



聖使徒福音記者マトフェイ聖堂(豊橋ハリストス正教会)の成聖式(1915年)の光景

教区冬季セミナー 「ロシア革命と正教会」

イリヤ・ハリン

二〇一九年一月十一日名古屋教会を会場として、西日本主教区冬季セミナーが開催されました。今年はイリヤ・ハリン兄を講師に招き、「ロシア革命と正教会」と題した講演会でした。

ロシア系アメリカ人であるイリヤ・ハリ



ン兄は、日本正教会史を専門とする研究者として博士号を持ち、「After Nicholas」(2014)の著作もあります。またハリン兄は南山大学、大阪大学の留学経験があり、二〇一四年以降は日本に在住し、名古屋教会の信徒として毎週参拝しています。

講演は、一・背景、二・悲劇、三・賜物の三部構成で、数多くの写真を紹介しながら行われました。

一・背景。二十世紀初頭のロシア正教会は数の上では隆盛を誇っていましたが、内実は機能不全と墮落に陥っていました。十七世紀にはいわゆるニコンの改革により旧儀式派が分かれ、またピョートル大帝による総主教制の廃止と聖宗務院による支配に教会は喘いでいました。

二・悲劇。ここでは革命による聖職者と信徒への迫害、財産の没収の実態が明らかにされました。迫害は十年周期で厳しくなりましたが、特に一九三七から一九三八年のそれは「大粛清」と言われ、その期間だけでも教会の数は百分の一になってしまいました。一九二七年にはセルギイ(ストラゴツキイ)府主教がソ連政府を正当な政府として認めるなど妥協が計られますが、迫害がやむことはありませんでした。

三・賜物。状況を一変させたのは第二次世界大戦であり、大戦下における正教会の愛国的行動、英米など連合国の要請などにより直接的な

迫害は緩和されました。一九一七年から一八年の革命最中に開催されたロシア正教会の公会は、二二七年ぶりの開催であり、総主教制の復活や規則の改定など画期的な決定がなされました。また亡命ロシア人により世界各地に正教会が知られることになり、中でもパリの聖セルギイ神学研究所の「パリ派」の神学者たちは西ヨーロッパの知識人に正教の精神性を伝えました。さらに巨大であったロシア正教会は革命の影響によりいくつかに別れ、その中には日本正教会もあります。ロシアからの援助が途絶えた日本正教会は事実上の独立をはたし、困難な歴史を乗り越えつつ現在まで活動しています。

最後にハリン兄は革命の最大の賜物は二千人にもおよぶ新致命者であり、信仰に生きた彼らの犠牲の上に現在のロシア正教会はあると結論づけました。

講演終了後の質疑応答では、スターリン以降のソ連により教会弾圧について、さらにこの歴史から我々の学ぶべき教訓についてなど多くの質問が出ました。

講演会の聴講者は五一名と盛会でした。休憩時間では旧交を温める場面も見られ、今後も機会があれば、教区行事を名古屋教会でも行っていききたいと思えます。

(伊藤記)

「からし種の信仰」

長司祭 イサイヤ 酒井以明

「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」（マトフェイ13章31〜32）

時々、うちでは子供たちが教会に関心が無く孫にいたってもそうだから、将来自分たちが死んだ後が心配だということを知ることがあります。

私が以前に伺っていた地区のあるご家庭では日曜日には家族全員が集まって家庭祭壇の前でお祈りします。ということもあり、孫まで揃って集まるということに

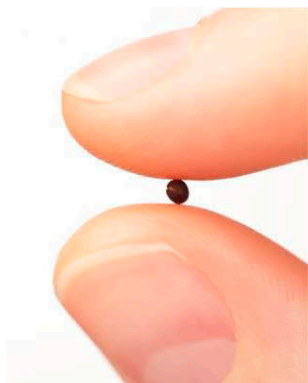
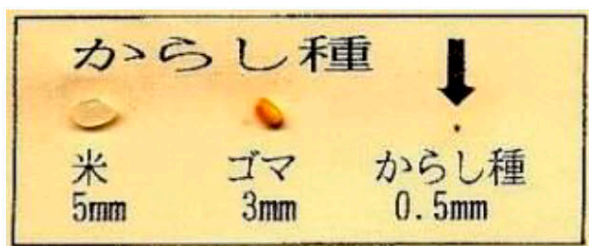


とても感銘をうけました。現代においては簡単なことではないと思います。もちろん無理強いすれば、反発もあり、逆効果になるでしょう。

ならばどうすれば良いのかということですが、そこには少し工夫が必要かもしれません。例えば玄関に主のアイコンを掲げて朝家を仕事や学校の為外出する際にアイコンに向かって十字架を描き、「今日も一日無事で過ごせますように」と頭を下げて出かける、帰宅の際には「今日も一日無事に過ごせましたありがとうございます」と十字架を描くようにと決めれば、比較的どの世代にも可能なのではないのでしょうか。

人間誰しも、神様に頼りたいと思うことがあるでしょうから、お孫さんがテストの日とかで出かける日は、神様にお祈りして出かけなさいと声をかける事も出来ませうでしょう。一番に重要なのは、神様に常に心を向けるということです。こうした小さな信仰がやがて家族全体の大きな信仰へと成長するものなのです。からし種は植物の種の中でも一番小さく0.5mmほどしかありません。

しかし成長すると大きな大木になります。主が言われた、からし種ほどの信仰があれば、山を動かすことも出来るとおおせられたように、私たちも、吹けば飛びそうな小さな信仰からでも、大きな信仰へと成長できる可能性を秘めているということなのです。家族を信仰に導くのは難しいことかもしれませんが、小さなことから初めてみませんか。



教区センター活動報告

教区主催 西日本主教教区連続講演会

「キリスト教とギリシヤ哲学」

二〇一九年一月四日（金・祝）午後一時～三時、京都の西日本教区センターにおいて、講演会「キリスト教とギリシヤ哲学」を開催しました。

正教徒はギリシヤ哲学といかに向き合い、長い歴史の中で取り込んでいったのかを、司祭グリゴリイ伊藤慶郎師（名古屋）が講演されました。



哲学者ソクラテス、プラトンにはじまり、キリスト教初期の弁証家イウスチン（ユステイノス）、アレキサンドリアのクリメント（クレメンス）、カッパドキアの三教父、聖大ワシリイ、神学者グリゴリイ、成聖者グリゴリイ、一四世紀の聖グリゴリイ・パラマスを取り上げました。

伊藤師は「ギリシヤ哲学を円熟した文化の産物として、キリスト教と比較検討、手本として用い、キリスト教的に変容させ、それぞれにキリスト教の対応物を構成していった」歴史を詳細にたどられました。

なかなか硬派のテーマにもかかわらず、聴衆五五人。質疑応答では、ギリシヤ語からラテン語圏への伝播、西欧のスコラ哲学など、文化圏・言語圏の差異への言及もありました。熱心な聴講者が集まり、正教会への関心の高さがうかがえました。

講演会後の京都聖堂拝観者一〇人、宣教の一助となれば幸いです。

宣教講演会「はじめての正教会」

二〇一八年九月一七日（月・祝）午後一時～三時、京都の西日本教区センターにおいて、教区主催の宣教講演会「はじめての正教会」正教会って何？」をパウエル及川信師を講師に開催。前半はプロジェクターの画像を見ながら「五官・五感に感応する教



会」をテーマに説明しました。今回のテーマ「はじめての正教会」、正教会の基礎・基本を初心者にも、いかに優しく説明するか、実に困難なことを知りました。

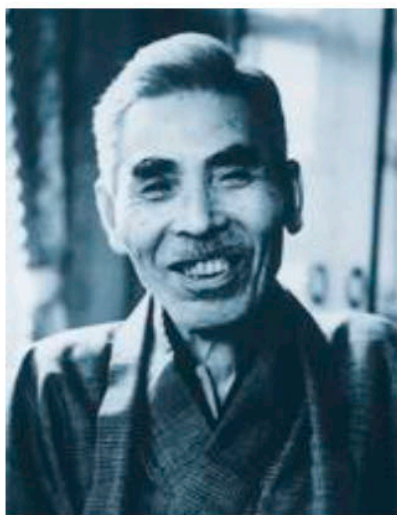
後半は聖堂へ移動して、晩祷（晩課）を出席者みんなで執り行いました。何と云っても正教会は、奉神礼。信仰体験、祈禱の体験なくして講義でのお話が深まらないと思ひ、体験型の講演会を目指しました。教区主催。

さいごに三〇分ほど質疑応答。正教会と他教派との相違、ローマ・カトリックなどとのエキュメニカル（教会一致）についての難しい質問もありました。

出席者の半数が関西圏のルーテル教会の牧師と信徒、ほか一般市民の出席も多く、東京・神戸等広範囲から集まった聴衆、六人。神戸正教会の後藤神父ご夫妻、尾又副輔祭がご協力くださいました。感謝します。

（及川記）

特別講演会 「昇曙夢と日本正教会」



日本最初の本格的なロシア文学者とされているワシリイ昇曙夢（のぼりしよむ）の業績について九月二四日（月祝）午後一時〜三時、教区センターにおいて、講演会を開催、講師は研究家の和田芳英先生、教区主催。

ちょうど本年は昇曙夢、生誕一四〇年、永眠六〇年の記念すべき年。

亜使徒聖ニコライ大主教の愛弟子として正教神学校において学究の日々を送り、明治後半から大正・昭和を日本正教会と共に歩み、正教時報の主筆、ニコライ露語学院長などを歴任、いろいろな文学賞を得たものの、ロシア文学界では、なぜか黙殺されつづけていること。日本における文豪トルストイ研究者として唯一、ソ連に招待されたことなどを実例を挙げて説明しました。出身地の奄美大島での顕彰の紹介、昇曙夢の珍しい本が多数展示されました。



大阪正教会の松島神父ご夫妻、京都の佐藤執事長・信徒がご協力くださいました。出席者二二人。講演会後の聖堂拝観に一人が参加しました。

京都教会主催

「京都検定」講習会

九月二六日（水）京都生神女福音大聖堂において、京都検定の講習会を開催、講師はパウエル及川信師。午前 ニクラス、午後 ニクラスの計四クラス。各クラスとも定員二五人、計百人の出席。聴衆はとても熱心でした。京都正教会主催。

啓蒙所での講話は、亜使徒聖ニコライの渡日、現在地購入、聖堂建設の経緯、聖障（イコノスタス）と聖像や聖器物、日露戦争とロシア兵捕虜から聖堂に献納された二点の奇蹟者聖ニコライのイコンの話など。

聖所（聖堂中央）に移って質疑応答、多数の質問がありました。

この講習会は、京都検定主催団体からの依頼でした。さすがに四クラスの講義をすると疲れましたが、市民向けの良い宣教の場となりました。

ちなみに聖像画家イリナ山下りん作「至聖生神女之福音」イコンは、京都御所（御苑）東の京都市歴史資料館に貸し出され、九月二一日〜一〇月末まで展示されています。この企画展の案内チラシ表紙にも京都

聖堂がカラーで掲載されており、市民の注目を集めていることがわかります。



秋のコンサート 大盛況

一月二三日（金・祝）午後二〜三時、京都の西日本教区センターにおいて「正教会 秋のコンサート」を開催。

演奏は聖堂で堂役奉仕をしてくださるバイオリンニスト、フローリン・クロイトル兄。ピアノ伴奏 陣門華子さん。協賛・関西盲導犬協会。会のはじめに約二〇分、盲導犬協会の宣伝、PR犬バーネン号の歩行演習のデモンストレーションなどがありました。

今回はバッハを中心とするプログラム、約十曲、熱演がつづき、アンコールもありました。すばらしい演奏でした。日本語・英語・ロシア語のチラシ千八百枚、新聞各紙の情報欄、近所の書店・キリスト教会、町内にも配布、聴衆八二人、必要経費を差し引いた募金一万円を盲導犬協会に寄贈。会後の聖堂拝観一〇人、宣教の一助となれば幸いです。

今回はお日柄に恵まれ、家族連れが多く、演奏者には、ちよつと御迷惑をおかけしました。横浜正教会の水野マトシカがいらつしやってくれました。年二回のコンサートを楽しみに待っていてくださる常連の方、町内からの参加者も増え、感謝しています。

（及川記）



ラドネジの奇蹟者聖セルギイ祭

〈京都〉

聖セルギイ祭 聖体礼儀

一〇月八日（月・祝）午前一〇時、京都生神女福音大聖堂において、教区主催、合同の祭日聖体礼儀が執り行われました。ゲオルギイ松島師、ワシリイ杉村師とパウエ

ル及川が立ち、大阪・神戸・京都などから参集した信徒が聖歌を歌い、大阪のニコライ松田輔祭はじめ堂役も多数参拝しました。祝日なので、親子連れも多くにぎやかな祭日祈祷となりました。参拝者四五人。

講演会

「聖セルギイの生涯とロシアの修道性」

一四世紀に活躍した聖セルギイの生涯とロシアにおける修道の歴史・特徴などをゲオルギイ松島師が、八日午後一〜三時、西日本教区センターにおいて講演。

聖セルギイは若い頃、ふつうの社会生活にはうまく適応できず、集団修道の場を離れて、奥深い森と荒野を祈りと労働を積み重ねながら、黙々と開墾しつつ生活。そのうちに修道者が集まり、修道院が形成されていったが、コンスタンティノープルの修道規則を取り込んだ時に修道院が混乱し、独り聖セルギイが出奔。ただしそこにも修道者が集まりはじめ、さらに充実した豊かな修道生活が営まれるようになり、聖セルギイの創立した、モスクワの北に位置する至聖三者大修道院（セルギーエフポサード）からは多数の修道者を輩出、ロシア各地に修道院を建設した歴史を松島師が、プロジ



ェクターの画像を見ながら詳しく紹介しました。出席三二人。

講演会後の京都聖堂拝観に六人が参加。宣教の良き場となりました。

午前中からつづけてご協力くださった皆様ありがとうございます。

夕方、司祭会議を開催、教区の牧会・宣教について協議しました。（及川記）

教区主催

第三回奉神礼基礎講座

聖体礼儀「テーマ」に

神品、堂役、聖歌、誦経の連携を学ぶ

九月一七日（月・休）、西日本主教区教区行事として第三回「奉神礼基礎講座」が大阪教会で開催され、大阪はじめ教区内教会から二十三名が参集しました。一〇時から九州地区の管轄司祭ワシリイ杉村神父の司



禱で聖体礼儀。西日本主教区で輔祭が祈禱に立つのは大阪教会のみです。他の教会では、司祭一人です。祈禱中には細かい堂役指導は困難です。そこで今回は、ニコライ松田輔祭があえて祈禱に立たず、堂役の手順や動きを实地指導しました。

昼食を挟んで講義、聖体礼儀の中心である「聖体礼儀感謝祝文」（アナフォラ、聖変化）をゲオルギイ松島神父が解説。ふだんは聖歌が歌われており、司祭が至聖所で唱える「黙誦祝文」（静かに唱える祈りのことば）は信者の耳に届きませんが、正教会の救いのエッセンスがぎゅっしり詰まっているからです。

二つ目の講義はマリア松島姉による「奉神礼を楽しく」。まず事務所前からホールまでをコンスタンティノーブルの街に見立てて模擬十字行。一六〇〇年前のアンティフオン行列やリテイヤを模擬体験し、そこにある「聖なる場所」に進み、入っていく「気分を体感しました。正教奉神礼の基調は「前」に進み、入場してゆく」。この礼拝体験はクリスチャンの「生き方」を開示します。「神の国」にむかって前へ、前へと進んでゆき、そこへ入場して行きます。それをどのように表せば、奉神礼がより力あるものとなるか、ロシアやアメリカの実況録音を聴きながら考えました。

次回は三月二一日（木・祝）「アミンと応える、教会としての祈り」と題して、引き続きアナフォラの祈りに対する信徒の応答、神品と信徒が一体になった奉神礼を考えます。また、「大斎から受難週の奉神礼」を取り上げ、皆さんの素朴な質問に答えるコーナーも設ける予定です。奉神礼の充実には宣教、教会活性化の原動力になります。春秋、年二回の開催を予定しています。堂役、聖歌、誦経に奉仕しておられる方、正教奉神礼に関心をお持ちの方、どなたでもご参加いただけます。一人一人の小さな力が大きな力になります。次回はぜひ一緒に。（松島記）

西日本主教区主催
奉神礼基礎講座
堂役 聖歌 誦経 祈禱

第4回 奉神礼基礎講座
聖体礼儀
神品、堂役、聖歌、誦経の連携

神品と堂役、連携の基本

- ・「アミン」と応える一教会としての祈り
- ・大斎から受難週の奉神礼

日時 **3月21日（木・祝）10:00**
場所 **大阪ハリストス正教会（信徒会館、聖堂）**
参加費 資料代、履金代片1,700円

西日本主教教区各教会行事報告

大阪教会

第一回クラシックコンサート

ザザ・ゴグア ヴィオラ コンサート



十一月十八日、教会を幅広い人々に知ってもらおうと企画した第一回クラシックコンサート、演奏は大阪教会信徒でジョージア(グルジア)出身のヴィオラ奏者ザザ兄、伴奏はリュボフ佐藤姉、司会はアフアナシイ山本兄。会報、近隣へのチラシのポステイング、関係各所へのチラシ配布、インターネットなどでPRしたところ、百名の募集に対し、一三〇名以上の申し込みがあり、八割以上は信徒以外の方たちでした。会場の設営、準備は信徒協力して「お・も・て・な・し」の心で臨みました。

バッハの無伴奏チェロ組曲、エルガーの「愛の挨拶」などおなじみのクラシックの名曲に続いてジョージアの美しい音楽が奏でられ、ヴィオラの豊かな音色を堪能しました。

コンサート後の聖堂見学にも大半の方が参加され、ホールに戻ってジョージアワインと料理の試飲試食会。ザザ兄のお土産チユルチュヘラ(ごぼう汁とナッツの菓子)、ハチャプリ(チーズパン)、ロビオ(豆のペースト)、ハルショ(くるみカレー)は松島マトシカの指導で婦人会が準備しました。近隣や知人友人への正教会紹介という意味で大きな成果がありました。

(松島記)



広島集会

聖体礼儀と宣教講演

十一月二十三日(祝)、広島市中区の袋町学区会館で今年二度目の教区の後援による「広島集会」が開催されました。午前の部は聖体礼儀。カトリック、プロテスタントからの二名を含め十二名が参加しました。持ち寄りの昼食での語らいを挟んで、午後からは九名の聴講者に、松島が「いのちの受け渡し」と題して、正教会の「伝統」理



解を語りました。解散に先立ち次回は同会館で、五月一日に復活祭祈祷（聖体礼儀）と講演、その後市内の廻家祈祷を行うことを、確認しました。

なお、今回あまり期待せずに、「ダメモト」で中国新聞に案内しましたところ、歓迎され宗教欄に予告記事を掲載してくれました。いつも地元密着の話題を熱心に探している地方紙の活用、各地の教会もう一度見直したいですね。

福岡伝道所

聖歌学びの会

二〇一九年一月六日（日）の聖体礼儀後、毎年恒例となりました「聖歌学びの会」が行われ、名古屋ハリストス正教会所属のエレナ廣石姉にご指導をして頂きました。参加された信徒の皆様にとっても大変有意義な時が与えられました。いつも丁寧なご指導を頂き有難うございました。（杉村記）



教区行事のおしらせ

西日本教区センター(京都) 入場無料

5月6日（月・祝）14時～15時

「正教会 春のコンサート」

演奏者 Male quartet Four by 4

主催：西日本主教教区 協賛：関西盲導犬協会

広島集会

5月1日（水・祝）

「主の復活大祭聖体礼儀と講演会」

聖体礼儀 9時30分～講演会

会場 広島市中区袋町学区会館

講師 ゲオルギイ松島雄一師（大阪）

会費 無料

※詳細はカラーチラシをご参照下さい

名古屋教会バザー

十一月四日十一時半から十四時半まで恒例の教会バザーが催されました。当日はあいにくの雨でしたが、来客もほぼ例年通りあり、売り切れ続出でした。今年から始まった献品コーナーも好調でした。また例年どおり手作りの食品売り上げは四十万程度、純利益は二十五万円ほどになりそうです。準備は一ヶ月ほど前から始まり、直前の三日間は連日朝早くから夜遅くまでの作業してくださいました。



大阪教会のバザー

台風に見舞われた前年とは打って変わったの好天。ところがあまりの行楽日和で、思いの外来場者が少なく苦戦しました。とはいえ恒例の綿菓子（子供たちのために無償提供）やたこ焼きには長い列、婦人会の食事、新鮮野菜も健闘しました。物品販売は当初献品不足に悩みましたが、それを聞いて信徒のみなさんが協力してくれ尻上がり、昨年よりむしろ多かったという結果に



なりました。当日の売り上げは約六十四万円、その後のミニバザーの収益も六万円を超えました。ミニバザーの売り上げには、ザザ・ゴグア兄のヴィオラコンサートに来場者によるお買い上げも貢献しました。

（松島記）

松山 露西亜兵士墓地祈禱

平成三十年十一月三日、徳島教会から司祭夫婦、赤澤兄、高松教会からは大藪兄が出席、松山・ロシア兵墓地保存会の菅田会長をはじめ、日々清掃を行って頂いている勝山中学の先生、生徒代表と地元のパラソニアの方々、計十七名の参加があり、徳島から持参した百束のお花とお菓子を墓前に供え、午前十一時より墓地祈禱を献じ、ロシア兵捕虜九十八名の為に永遠の記憶が為されました。

長司祭グリゴリー小川公師は昭和四十五年頃から休む事もなく行ってきた墓地祈禱を病氣療養の為、この日は休む事になり残念ではありましたが罪僕が代打として司禱させて頂きました。

過去にはロシア捕虜の為に聖堂がこの松山に建立され、今は現存していませんが、イコノスタスは大阪の聖堂に在り、その他のイコンはニコライ堂に今も掲げられています。

最後に保存会の菅田会長より来年こそはお父様と一緒にお越し下さいと、励みの言葉を頂き帰路につきました。

(小川卓記)



投稿

天使

パンテレイモン小川純（高松教会）

天使がやってきた

沈める心の扉をそっと叩いた

私は嬉し涙していた

暗かった世界は

光り輝く美しいものに変わった

今も

烈しい嵐が吹きすさぶ時

私はそれを思う

天使は去っていない

心の扉の処に

そっと立っている

大聖水式

名古屋・半田教会 神現祭

半田教会では一月十三日、名古屋教会では一月二十日に神現祭をお祝いし、聖体礼儀後、大聖水式を行い、水の成聖が行われました。名古屋教会では堂祭として恒例の餅つきを行い、男性信徒を中心に餅（神現餅）（しんげんもち）をつき、みんなであんこ、きなこ、大根おろし、のりなどでおいしくいただきました。（伊藤記）



半田正教会



名古屋正教会名物 しんげん餅



雨の中で十字行(名古屋)

大阪正教会



神戸正教会



★教区出版物のご案内

『ひらがな時課経』(西日本主教教区) 希望頒布献金 1500 円

漢字カタカナを敬遠する方も多いため、ひらがな漢字の時課経。指示書きはわかりやすい現代語に、翻訳はニコライ大主教が改訳した『大斎第一週奉事式略』などを参考にしてあります。

『ロシア正教会の聖歌』J. V. ガードナー、マリア松島純子訳

(西日本主教教区) 希望頒布献金 1300 円

正教会奉神礼、聖歌の入門書として世界的に読まれている一冊です。用語、祈祷の構造、歴史が解説されています。

上記二冊は 2017 年 8 月 14-15 日に行われた西日本主教教区主催の『奉神礼基礎講座－誦経聖歌研修』の副読本として発行。



『私たちはどのように救われるのか(カリストス・ウエア主教論集1)』

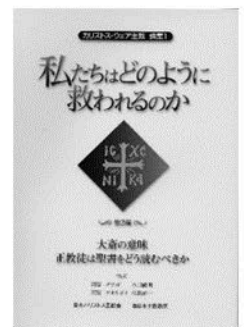
(西日本主教教区刊) も絶賛販売中。

齋(ものいみ・節制・儉食)の真の意味を深めたい人は是非この本を読みましょう。希望頒布献金 1300 円

★推薦図書のご案内

『神父になったサムライ』長司祭パウエル及川信

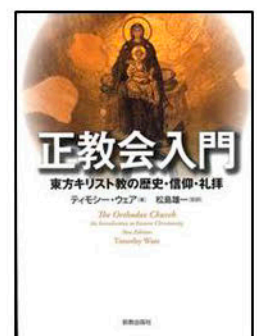
日本正教会の日本人初代司祭澤邊琢磨の全半生をはじめ明治期の正教会を支えた理念、目標、使命感を論じるばかりではなく、日本宣教団の守護聖人聖インノケンティや若き日のニコライ二世らにも言及。多岐にわたる日本とロシア、正教会との出会いと紡がれた歴史をも丁寧に検証します。是非ご一読を。希望頒布献金 1000 円



『正教会入門』ティモシー(カリストス)ウエア府主教(新教出版社)

著者のカリストス府主教(1934-)。英国に生まれ、正教に帰正し、多数の著書がありますが、中でも本書は 1963 年の初版以降、正教会入門書の世界的な定番です。西欧出身の著者だからこそ、現代社会の関心にも応えられる良書です。正教会の歴史、神学、実践までを深くかつ網羅的に解説しており、信徒未信徒を問わずおすすめできる本です。

翻訳は 2004 年にゲオルギイ松島師を中心として始まりましたが、長い中断を経てようやく出版となりました。本書は 2015 年の最新版である第三版に基づいています。定価 4320 円。

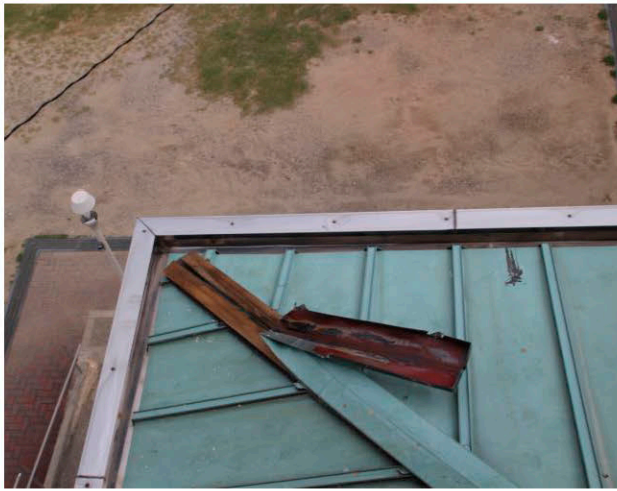


被災された皆様へのお見舞い

6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、8月以降の台風などの被災者に、教区宗務局司祭・信徒一同、衷心よりお見舞い申し上げます。本来ですと皆様にお見舞金等を送りたいところなのですが、あまりにも被災対象となる教会・信徒が数多いため、心ならずもできないこととなりました。深くお詫び申し上げますと共に、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

西日本主教教区宗務局

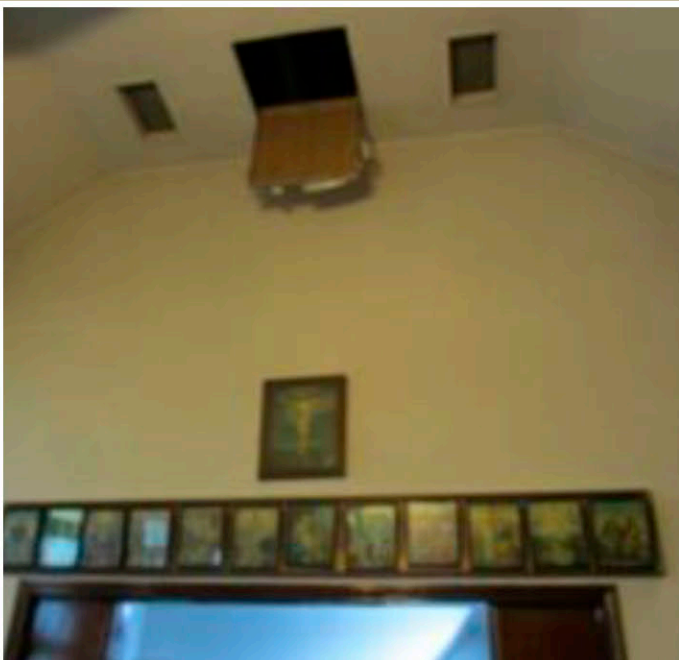
昨年、西日本各地域の教会からも被災状況が報告されました。



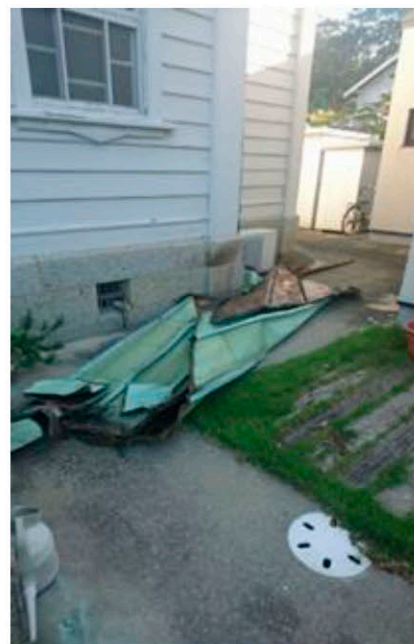
大阪教会屋根損壊



大阪教会敷地内倒木



神戸教会聖堂天井損壊



豊橋教会 剥落した聖堂屋根銅板